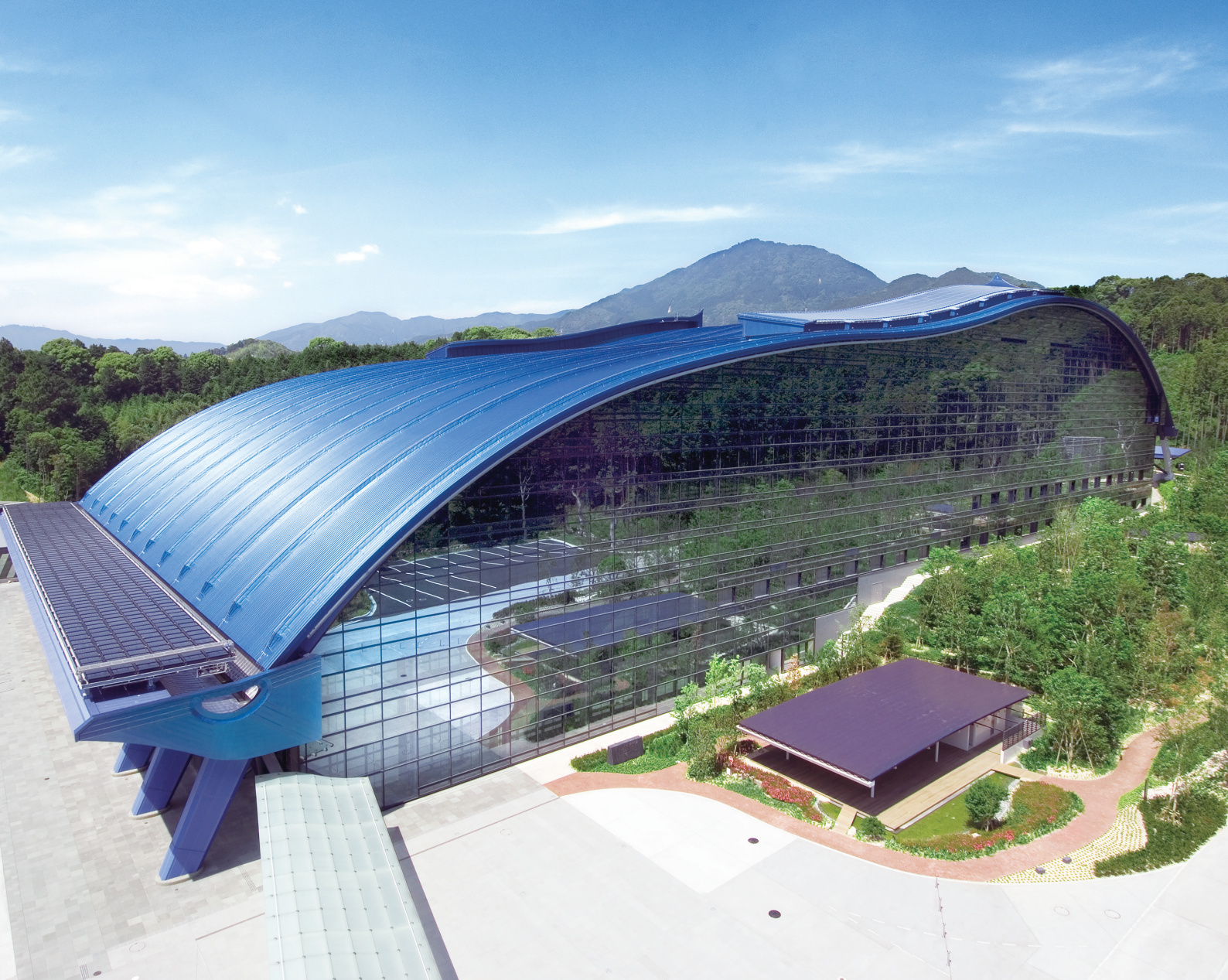




九州国立博物館

Kyushu National Museum Volunteer Report

第6期ボランティア活動報告書

目次

刊行によせて

九州国立博物館長 富田 淳

1. 九州国立博物館ボランティアとは	1
2. 展示解説部会活動報告	3
3. 教育普及部会活動報告	7
4. 館内案内日本語部会活動報告	11
5. 館内案内英語部会活動報告	15
6. 館内案内中国語部会活動報告	19
7. 館内案内韓国語部会活動報告	23
8. 館内案内手話部会活動報告	27
9. 環境部会活動報告	31
10. イベント・サポート部会活動報告	35
11. 資料整理部会活動報告	39
12. 学生部会活動報告	43
13. フィールド部会活動報告	47

(資料)

九州国立博物館第5、6期ボランティア名簿

刊行によせて

平成17年10月16日、九州国立博物館は百年来の悲願を遂げて、ここ太宰府に開館しました。爾来、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」コンセプトのもと、70本の特別展をはじめとする、さまざまな活動を展開してきました。その間、令和2年には、世界を襲った新型コロナウイルス感染症が日本にも波及し、当館も2月27日から5月31日まで、臨時閉館を余儀なくされた事もあります。令和2年から3年にかけては、ボランティア活動が休止となり、悔しい思いをされた方も多くおられる事でしょう。しかしながら、現在はコロナ禍の影響からもほぼ脱却し、この秋にはめでたく開館20周年を迎えようとしています。これもひとえに、ボランティアの皆様によるあたたかいご支援の賜物に他なりません。ここに厚く御礼を申し上げます。

社会的包摂が叫ばれ、博物館も今まで以上に優しさや親しみやすさが求められる昨今、ボランティア活動はますますその必要性を増しています。これまで培ったボランティア活動のノウハウを、しかと次世代に伝えるためには、ボランティア経験者の方々の、変わらぬご支援も欠かせません。当館は引き続き、人と文化財を繋ぐ場を広く提供させていただき、多くの方々と感動を共有してまいります。博物館が、全ての方々にとって自己実現の場であり続ける事を祈念するとともに、皆様がたの益々のご健勝と更なるご活躍をお祈りいたします。

令和7年3月

九州国立博物館長

富田 淳

まえがき

平成17年5月、九州国立博物館ボランティアは293名で発足しました。職員もボランティアも手探りの中、九博が目指すボランティア像や活動マニュアルの作成はもちろん、部会の活動内容の検討や、多岐にわたる研修（展示物や文化財保存修復、来館者接遇等）を経て、平成17年10月より本格的に活動を開始し、九州国立博物館ボランティアの礎を築いていきました。その活動は「九博モデル」とされ、今でも全国各地から多くの視察が訪れます。

平成20年4月より新たに第2期のボランティアが加わり、さらなる九州国立博物館のボランティア活動の発展と充実に努めてきましたが、活動期間が最長でも6年間と定められていることもあり、平成23年3月に第1期は活動終了を迎えました。その後、同4月からは活動を継続する第2期と新たに登録した第3期が活動を開始し、以降3年ごとにボランティアの入れ替えを繰り返しながら、現在は第5期と第6期の214名が活動をしています。

そこで、第5期、第6期の活動任期終了を機に、これまでの九州国立博物館ボランティア活動の足跡を改めて報告したいと思います。

1 九州国立博物館ボランティアとは

九州国立博物館（以下「九博」という）は、ボランティア制度の導入の目的に「来館者サービスの充実を図るとともに、生涯学習の推進及び博物館活動を支援する」「ボランティアの活動を通して、新たな視点での館の事業の改善や創出を目指し、館の活性化を推進し、社会教育施設としての博物館に対する期待に応える」を挙げています。

また九博における“ボランティア”とは「自らの自由意志に基づき、九博のパートナー（協働者）として、博物館活動の支援推進のために知識・技能を無償で提供される方」「館の業務を補う『無償の労働力』ではなく、来館者サービスの充実を目的に自己実現ができる方」と定義しています。

九博ボランティアに活動任期があり、3年ごとに約250名の新規ボランティアを受け入れていることは、実はこの目的・定義に大きく関係しています。なぜなら、「できるだけ多くの方に“九博ボランティア”を経験してもらいたい」という方針があるからです。

こうして開館以来、常に新しい視点を取り入れた活動を行っている九博ボランティアは、“地域市民とともに歩む”当館の象徴的存在となっています。

九博ボランティアは、平成17年の発足当時、842人の応募があり、館内審査を通過した293名をボランティアとして登録し、5分野9部会（展示解説・教育普及・館内案内（日本語・英語・中国語・韓国語）・環境・イベント・学生）で活動を開始しました。また地域の手話グループと連携し聴覚障がい者へのサポート活動も同時に開始しました。

その後、九博内でのボランティア活動を円滑に進めるために部会の新設や統廃合を繰り返し、現在は7分野12部会の214名で活動を行っています。

平成20年の第2期募集時より「資料整理部会」、「サポート部会」の新設

平成29年の第5期募集時より「フィールド部会」を新設

「イベント部会」と「サポート部会」が統合し、新たに「イベント・サポート部会」を新設

〔ボランティア数〕

	総 数	第5期	第6期
展示解説部会	47 人	19 人	28 人
教育普及部会	26 人	11 人	15 人
館内案内日本語部会	29 人	9 人	20 人
館内案内英語部会	17 人	7 人	10 人
館内案内中国語	6 人	0 人	6 人
館内案内韓国語	13 人	5 人	8 人
館内案内手話部会	16 人	—	—
環境部会	26 人	11 人	15 人
イベント・サポート部会	7 人	3 人	4 人
資料整理部会	8 人	8 人	—
フィールド部会	14 人	6 人	8 人
学生部会	5 人	3 人	2 人
計	214 人	82 人	116 人

令和5年4月より地域の連携グループとして活動していた「手話部会」が九博ボランティアに統合
 令和6年の第7期募集時より「学生部会」を「ユース部会」に改称

2 九州国立博物館ボランティアの運営

九博のボランティア活動においてはボランティアの主体的な活動の重視を基本としています。日常的な活動において、博物館の目標なり、九博の博物館活動という大きな“枠”はありますが、その“枠”内で、ボランティア自身で様々な活動や取り組みを考え、さらなる「来館者サービスの充実・向上」を目指しています。つまり、活動の大枠は博物館から提示しますが、具体的な活動内容はその部会で検討・協議をしながら決めていきます。また自分たちの活動に必要なと思われる研修等についても、ボランティア自身で企画し、実施していくという形をとっています。「博物館がやってくれる」「博物館からの指示に従う」といった考えのボランティアには戸惑いも生まれますし、何より自分が思い描いていた活動以外のことに関わることで多くなります。しかし、活動や運営に自ら関わり、自らの意志や思いが活動に生かされることによって、活動だけでなくボランティア一人ひとりの主体性がより伸長されると考えます。また、このような方針は、九博ボランティアのモチベーションの向上や、活動の活性化、ひいては来館者サービスの充実にもつながると考えます。

運営においては「定例会」と「部会」を実施します。定例会は、月1回（第3土曜日）、九博側からボランティア担当・ボランティアコーディネーター（2名）、各部会から代表者が参加して実施します。主な内容は博物館からの連絡・報告のほか、博物館からの提案等に対して検討・協議を行います。しかし、この定例会で結論を出すのではなく、各部会で検討・協議し、次回の定例会に持ち寄り、結論を出すという手順を基本としています。時間はかかりますが、ボランティア一人ひとりの思いや意見ができるだけ全体の運営等に反映できるようにしています。また定例会後は、各部会に連絡・協議等を行う「部会」を開催し、全体での意志の統一や情報の共有を図るとともに、先述したように部会の運営や活動について協議等を行っています。

～ともに学び、ともに感動しませんか～



大切なのは知識だけではなく、まずは、笑顔(^)o(^)です！

1 はじめに

当時、第6期ボランティアは、2020年度の春からボランティア活動を開始する予定になっていましたが、コロナ禍により活動中止を余儀なくされ、ボランティア活動再開までの「ロードマップ」に沿って、2022年3月より第5期ボランティアメンバーが時間短縮でボランティア活動を開始。

第6期ボランティアメンバーについては、4月より第5期ボランティアメンバーと共に活動を開始する。(合計56名)

2024年4月現在で47名。各曜日（火曜日から日曜日の6日間）午前・午後の12班に分かれて展示解説の活動を行っている。

各年度の代表、副代表を下表に示す。(途中退任者含む)

	代表	副代表	副代表	副代表
2022年度	吉用 賢治	坂口 博幸	保田 和代	
2023年度	白濱 雅道	久保田 均		
2024年度	萩原 洋子	濱坂 昭 宮田 俊行	田口 光起 中島 茂樹	堤 武敏

2 展示解説部会の活動

展示解説部会の活動は、展示案内とその他の活動に大別される。展示案内とは、4階の文化交流展示室での案内で、その他の活動とは主に、館から依頼されたお手伝いおよび自主的な活動である。

(1) 展示案内

展示解説部会のメインとなる活動は4階の文化交流展示室で行われている。活動日は、休館日を除く毎日（火曜日～日曜日）の午前と午後となっている。年に数回月曜開館の日があるが、その日に都合のつくメンバーが対応している。活動内容については、次の3点に分類される。

- ① 博物館が受付けた団体を解説付きでご案内する活動。
- ② 4階エスカレータ脇にある受付カウンターで依頼されたお客様に同行して、展示室内を解説しながらご案内する活動。

- ③ 文化交流展示室内にある「Qボックス」でお客様の質問に対応し、場合によっては、その後展示室内をご案内する活動。

他に、展示室内を歩いているときに、お客様に呼び止められご質問を受ける、お帰りになる際にちょっと質問を受けるなど、臨機応変に対応している。

(2) その他の活動

館から「お手伝い」として依頼される活動としては、次のようなものがある。それとは別に、有志による様々な活動も行ってきた。

① きゅーはくきやらばん

きゅーはく号が各地へ出向く体験型の移動博物館。県内各地はもとより、東は横浜から西は長崎まで、きやらばん隊の職員に同行して活動のお手伝いをする。



② 夜のきゅーはく探検

夜間開館時に行うバックヤードツアーに同行し、見学者の誘導のお手伝いをする。

③ スクーリングプログラム班による博物館の紹介

九州国立博物館が行っている学校教育支援事業の一環として、小・中学校を対象に年11回、館内の概要や見どころといった「九博の魅力」をガイダンス形式で伝えるもので、数回の研修を経て、「ミュージアムホール」及び「研修室」で実施している。

④ 有志による子どもフェスタ参加（2024年度、参加予定）

こどもフェスタ開催については、2022年度・2023年度新型コロナ流行により中止となったが、2024年度は2025年2月23日（日）に子どもたちが歴史や展示品により親しみやすく学習できるよう、展示室等で「きゅーはくXからの挑戦状」や「はにわを作ろう」を実施予定である。

3 研修について

(1) 館外研修

年に一度、研修先を決め展示解説部会で研修を行っている。今後の活動に役立つような研修をプログラムし実施している。

館外研修の行き先

	日 程	行 先
2022 年度	10/19(水)	伊都国歴史資料館見学及び現地ボランティアとの意見交換、平原遺跡、三雲南小路遺跡等見学
2023 年度	10/26(木)	吉野ヶ里歴史公園（吉野ヶ里遺跡）、九州歴史資料館学芸員の説明及び施設等見学
2024 年度	10/18(金)	岩戸山歴史文化交流館いわいの郷（八女古墳群）見学及び現地ボランティアとの意見交換、広川町古墳公園資料館（石人山古墳・弘化谷古墳）見学、御塚・権現塚古墳見学



2022年度



2023年度



2024年度

（２）部内研修

展示解説員が活動に必要な知識や技能のスキルアップを目的とし、展示解説部会独自で各ボランティアの要望を踏まえ、各年３項目、年間各々５～６回程度研修を実施している。

研修内容は以下のとおり。

	講 座 名
2022 年度	やきもの、仏像、古文書
2023 年度	やきもの、仏像、古文書
2024 年度	やきもの、古文書、大宰府とその周辺の史跡



やきもの講座



古文書講座



大宰府講座

（３）個別研修

有志で個別に研修を行っている。研修実績は以下のとおり。

朝倉・うきは地域の古墳見学、大宰府探索など

（４）その他研修

① ミュージアムトーク

隔週実施されているミュージアムトークは、博物館の学芸員が４階に展示している展示物をスポット的に解説する来館者向けのサービス企画である。もちろん、私たちボランティアもその話を聞くことができる。実際の展示物を見ながらの解説なので、自身の案内にもすぐ生かせるまたとない機会となっている。

② 講演会

博物館の学芸員や外部講師を招聘しての講演会も実施されている。

③ 特別展の特別観覧

九博ボランティア OB、OG および現在活動中のボランティアを対象とした、特別展の特別観覧が特別展ごとに1回実施されている。特別展に関連したレクチャーのあと、閉館後の展示室をじっくりと見て回る。



ミュージアムホールで開催されたきゅーはく☆とっておき講座、「福岡に残るモンゴル襲来の際の様子」の様子

4 今後の課題と目標

展示解説部会の活動拠点となる4階の文化交流展示室では、アジアをはじめ、旧石器時代から江戸時代、または沖縄やアイヌの文化圏について遺物や資料など展示されている。

以上のように解説内容も多岐にわたるため、全般的ではなく、主に各々が持つ知識など得意分野を生かして、展示解説をしながら案内を行っているのが現状である。九博でのボランティア活動を行う際、私たち個人の生涯教育の一貫として更なる高みを目指すために、または来館者の問いにいつでも答えられるような体勢を整えるにはどうしたらよいだろうか。今までにないボランティア同士の知識や意見を交換できるような研修会や身近に学芸員さんとのコミュニケーションを図りながら、来館者対応のスキルを上げていく。今後の課題として考えていきたい。

5 おわりに

思い起こせば、九博の第6期ボランティア説明会に胸を弾ませながら参加した矢先に、コロナ禍という社会現象が起き、ボランティア活動を休止しなければならなかった約2年間、正直先輩方のようなボランティア活動ができるのだろうかと不安な時期もありました。しかし、少しずつコロナ禍が明けはじめ規制緩和となり、現在は通常通りのボランティア活動ができるようになりました。現在の九博には世界の方達をはじめ、日本の方達も津々浦々から足を運んで来てくれます。展示解説をしていて一番嬉しいと思うことは、「とても楽しかったです。ありがとうございます。」と言われた時の言葉。

上手く説明できないこともありますが、来館者の方達が楽しめるようにするためにはどうしたら良いかを常に意識しながら展示解説を行っています。

最後に、展示室の内容だけでなく他の歴史についていろんな質問をぶつけて、それに答えてくれた第5期のボランティアメンバーの先輩方。ここに感謝の意を申し上げます。そして、新たな気持ちを持って迎える第7期のボランティアメンバーの皆さん。私たち第6期のボランティアメンバーと一緒に「わくわく」するような展示解説を共に学びましょう。

1 はじめに

九州国立博物館（以下、九博）のエントランスホール入り口の近くに位置する入場無料の体験型展示室「あじっば」は、「博物館への入り口」の役割を担っています。私たち教育普及部会の主な活動場所は、この「あじっば」です。



体験型展示室「あじっば」

「あじっば」では、日本と交流のあったアジアやヨーロッパの文化を「みて」「きいて」「かいて」「ふれて」体験することができます。お客様と「もの」との対話を大切にするために、常に付かず離れずの関係を保ちながら、特に子どもたちに「博物館って楽しい」、「また行きたい」と感じてもらえることを目標に活動しています。また、九博の教育普及活動に少しでも役立ちたいとの思いから、毎年、参加体験型ワークショップ「あじっば夏まつり」を企画・準備し、お客様に楽しんでいただいています。私たちボランティア自身も楽しむことを心掛けて活動しています。

2 部会について

(1) 部会運営

① 部会員および役員

5期11名（男性2名、女性9名）、6期15名（男性4名、女性11名）、計26名で活動していますが、女性が多い部会です。

役員は、代表1名、副代表1名、書記1名で、1年任期です。また、「あじっば夏まつり」や館外研修等の行事については、別途担当を決め、分担・協力して活動しています。

② 定例会

交流課主催の定例会を受けて、毎月1回（第4土曜日 or 日曜日）部会を開催しています。内容は、九博からの連絡事項等の伝達、行事や部会内の諸課題についての協議等です。なお、部会には交流課教育普及担当の職員も出席されますので、九博とボランティアとの意見交換や情報共有の場ともなっています。

また、部会前後に行事の準備や研修を行うこともあります。

(2) 活動内容

① 「あじっば」での活動（通常の活動）

ボランティア各人が都合のいい日に、午前（9時30分～13時）か午後（12時30分～16時）、週1回を目標に活動しています。

「あじっば」には、アジアやヨーロッパの国々の「屋台」、「あじ庵」、「たなだ」、「あじぎやら」、「BOX キット」のコーナーがあり、衣装や生活用品、玩具、ゲーム、楽器などが展示されています。子どもや大人、障がいのある方や外国の方など、様々なお客様に、のびのびと、自由に、「あじっば」を楽しんでもらえるよう、そっとサポートす

るのが私たちボランティアの役割です。なお、「あじっぱ」には常時2～3名のスタッフが勤務されており、この方々と協力し、支援を受けながら活動しています。



「あじっぱ」のBOXキット



「あじっぱ」での楽器体験



「あじっぱ」でのゲーム

② 「いこうよ！あじっぱ夏まつり」(教育普及部会ボランティアの最大のイベント)

「あじっぱ夏まつり」は教育普及部会単独の、そして最大のイベントです。毎年夏休みにミュージアムホールで、「あじっぱ」に関連のある子ども向けのワークショップを開催しています。大勢の子どもたち、家族連れが参加され、大いに楽しんでもらっていますが、私たち教育普及部会の活動のアピールの場ともなっています。大まかなことは前年度末には決め、年度初めから具体的に準備に取り掛かり本番を迎えますが、この過程で部会員間のコミュニケーションが深まり、一つの目標に向かって進む集団となります。終了したときの達成感、充実感は格別で、ボランティアの楽しさ、やりがいを体験できる絶好の機会となっています。

実施年月日	プログラム名
令和4年 開催なし	*年度当初、コロナ感染防止対策の関係上、あじっぱの体験ゾーンも制限されており、時期を11月などに延期して実施する案も検討されたが、以後の感染状況も見通せない中で、開催はしないこととした。
令和5年 7月22・23日 11時～15時	・ミニ鬼瓦をつくってみよう！ ・タングラムであそぼう！ ・インドネシアの民族楽器にふれてみよう！ ・せかいのコマであそぼう！
令和6年 7月20・21日 11時～15時	・アジアの民族楽器にふれてみよう！ ・むすんでみよう！梅・あわじむすび ・せかいのコマであそぼう！



令和6年度「あじっぱ夏まつり」子どもたちへの支援の様子

③ 館内研修

i 交流課による研修

- ・「あじっば」では、月に一度程度、展示替えが行われます。展示替えから1週間は、「あじっば」での活動の際、交流課職員から展示物に関する詳しい解説をしていただけます。見るだけでは知り得ない知識や時代背景などが聞ける興味深い時間でもあります。また、交流課で用意された展示物解説資料も参考にしながら、新しい展示内容を理解するように努めています。

ii ボランティアによる研修

- ・「あじっば夏まつり」の際、「ひもむすび」グループで作成した資料を「あじっば」に置いていただくことになりました。これを機に部内で「ひもむすび」の研修を実施しました。

④ 館外研修

九博には、部会で話し合い、他施設への館外研修が行える制度があります。2019年以降コロナ禍で活動を制限せざるを得ない状況でしたが、2022年、2023年には交流課職員や他部会員、そして「あじっば」スタッフの方も一緒に館外研修を行うことができました。九博で同じように活動していても、普段交流する機会のない人たちとお互いの活動について話せたことはとてもよい刺激にもなりました。他施設を訪問することで、日常のボランティア活動に資する知識や技能が高まり、お客様への対応の仕方等見えてくるものがたくさんあります。それぞれが「気づき」や「学び」を持ち帰り、日常の活動に活かすよい機会となりました。

実施年月日	研 修 先
令和4年11月27日	・九州歴史資料館
令和5年12月2日	・長崎街道木屋瀬宿記念館 ・中村美術館



令和4年度九州歴史資料館ボランティアと意見交換



九州歴史資料館ボランティアに指導を受けて



令和5年度長崎街道木屋瀬宿記念館見学



木屋瀬宿記念館ボランティアさんと記念撮影

⑤ その他

- i いわゆる裏方の作業、「あじっば」の展示替え、大掃除、展示用資料整理等は、その都度参加者が募られます。いつも5～6人程度参加していますが、作業をしながらの交流課職員との会話から、表舞台では見えない多くのことを知ることができて、楽しい作業でした。
- ii 「きゅーはくきゅらばん」(ものづくり活動、体験活動)は、その都度全ボランティア対象に参加者募集が行われますが、「あじっば」に関連したワークショップが多いので、教育普及部会員は参加しやすく、参加すると、九博以外の場所でのイベントの様子、来場者の反応を知ることができ、「自分も九博の教育普及活動に関わっている」と実感できて、有意義な機会でした。特に馬頭琴やアングルン等の民族楽器、BOX キットにもある小さな楽器、中国ごま体験などは、夏まつりや日常のあじっば活動で使い方に慣れているのでサポートしやすく、参加してとても有意義でした。
- iii コロナ禍で中断していた「子どもフェスタ」が復活することになり、2月の本番に向けて出し物の検討や準備を始めました。「子どもフェスタ」は、全ボランティア参加によるイベントであり、教育普及部会単独の「あじっば夏まつり」と若干趣が異なりますが、ワークショップのノウハウが生かせるし、幅広く九博を理解し、他部会と交流できる場でもあるので、有志で参加することにしました。「あじっば」をもっと知ってもらおうと「ちょこっとあじっば体験」と銘打って、BOX キットの中から切り絵や小さな楽器、また、子どもたちに人気のあるインドネシアや韓国のゲームで博物館のおもしろさを感じてもらいたいと思っています。

3 おわりに

思えば、2年間のコロナ禍での活動休止期間に、「いつから始まるのか」「始まっても接客ができるのか」など心配していたボランティア活動でしたが、感染状況の収束に応じて段階的に活動も活性化し、3年目の今年度は、全スペースが以前の形に戻り、ようやく、文字通り「体験型展示室」でのサポートができるようになりました。夏まつりも開催できたのは2年目からでしたが、まだまだ、教育普及部会の活動そのものの理解も体験も浅いまま、4つのブースに分かれ、「あじっば夏まつり」の準備に取り掛かり、7月末には本番を迎えました。この期間を通してボランティア同士がお互いを知ることができましたし、一体感も醸成され、教育普及部会の活動の全体像もつかめて、その後の活動にプラスになったように思います。

3年目は、あじっばへの来館者も大幅に増え、サポートにも充実感が出てきました。また、2回目の夏まつりも経験し、活動が軌道に乗ってきて、部会としてのまとまり、仲間意識、協力体制が更に深まってきたように思います

来年度から新たな3年が始まります。継続して活動する第6期のボランティアは、初心に返って九博の教育普及活動に貢献できるよう、第7期のボランティアの皆さんと協力して活動していくつもりです。

これまでの5期の皆さんの強力なリードとアドバイス、交流課職員や「あじっば」スタッフの方々のご指導やサポートに深く感謝いたします。



令和6年度「あじっば夏まつり」を終えて

1 はじめに

館内案内・日本語部会は、九州国立博物館（以下「九博」という。）の1階エントランスホールにあるボランティアガイド受付カウンターを中心に活動しています。

ここでは、来館者の中で館内案内を希望される方を対象として、九博の概要・特徴や博物館の機能・役割などを説明しています。

案内にあたっては、「わかりやすい説明」と「細やかな対応」を常に心がけ、来館された方が九博に興味を持ち、博物館の魅力や楽しさを知っていただくために少しでも役に立てればとの思いで活動しています。

2 部会について

（1）活動内容

館内案内には次のコースがありますが、その他にも来館者の様々な質問や問い合わせに対応するなどのサービスを行っています。

① 館内施設案内

エントランスホールを中心に各施設を案内し、次の項目についての説明をわかりやすく行っています。

- i 九博が歴史系博物館として設立された背景など
- ii 九博の特徴、博物館の機能と役割、コンセプト・テーマなどとともに九博が目指しているもの
- iii 建物の規模や特徴、省エネルギー対策、地震対策（免震装置）など
- iv 特別展やイベントなどの情報

また、学校教育などの事前予約団体で来館者が多数の場合は、研修室やミュージアムホールで、スライドを使用してプレゼンテーション（ガイダンス）を行っています。

② バックヤードツアーの案内

九博の2階にあり、通常は非公開エリアとなっている文化財の「収蔵庫」、「修復施設」、「学芸調査室」などや、要望に応じて建物を地震から守る免震層（2階床下部分）にも案内し「免震装置」についての説明を行っています。

このバックヤードツアーは、原則として週2回（火、金曜日）の事前予約によるものと、日



ボランティアガイド受付カウンター



博物館模型前での説明風景



博多祇園山笠（飾り山）の説明

曜日の当日申し込みによるものがあります。

ただし、教育・行政・博物館関係者には、火・金曜日以外の日も受付けています。

③ 茶室見学ツアーの案内

毎週日曜日には、九博創設5周年を記念して建設された茶室の見学ツアーを行っています。茶室は九博の建物の外にあるため、茶室まで案内する間、館外から博物館施設の一部について説明を行っています。

(2) 活動状況

① 部会員数

	令和2年	令和3年	令和4年
第5期生	10名	9名	9名
	男性4名、女性6名	男性4名、女性5名	男性4名、女性5名
第6期生	20名	20名	20名
	男性4名、女性16名	男性4名、女性16名	男性4名、女性16名

男女比では女性の割合が高く、さまざまな場面で女性の活躍が際立つ部会です。

② 活動の仕方

- i 日本語部会では各自の予定に合わせて自由に活動日を決めており、ボランティアルームにある「活動予定表」に名前を記入し、活動計画を立てた上で活動しています。
- ii 事前予約の団体がある場合は、人数に応じ必要とされるボランティアの数（概ね10名程度のグループごとに1人）を決め、「活動予定表」に名前を記入しています。

③ 説明マニュアル、ガイダンス用スライドの活用

i 館内施設案内用マニュアル

各部員の案内に関する知識の向上を図るとともに、案内内容を均一化するため「館内案内活動マニュアル」を活用しています。

ii ガイダンス用スライド

学校教育や社会人の研修など多人数の場合はガイダンス用スライドを活用し説明を行っています。



ミュージアムホールでのガイダンス

④ 部会の開催など

- i 交流課からの連絡事項、館内案内に必要な各種情報の共有、及び部会として決定する事案などを協議するために定例の部会を月一回開催しています。
- ii その他、緊急連絡や各種情報の共有を迅速に行うため、「LINE グループ」を活用し情報の共有と緊急連絡などの充実を図っています。

(3) 活動実績

○年度ごとの案内人数

(単位：人)

区分 年度	事前予約				当日受付 館内案内	日曜日		合計
	館内案内	ガイドンス	バックヤード	茶室ツアー		バックヤード	茶室ツアー	
2017	277	1,364	3,157	15	647	566	67	6,093
2018	188	635	2,778	9	550	653	63	4,876
2019	102	977	1,644	14	421	491	56	3,705
2020・2021年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため活動休止となりました。								
2022	166	38	1,674	0	151	340	26	2,395
2023	665	52	1,495	0	129	636	85	3,062
2024	262	0	2,423	3	137	384	63	3,272

※ 2019年度は4月～2月上旬まで、2024年度は4月～11月下旬までの実績です。

コロナ禍前の案内実績数と比較すると、徐々に回復の傾向は見られるものの、依然としてコロナ前の水準には達していません。2024年度は、翌年の開館20周年に向けた施設整備のため特別展を開催できなかったにもかかわらず、案内実績は堅調に推移しています。

(4) 研修等

① 館外研修

部会員のスキルアップや団結力の強化を図るとともに、他施設等のボランティアとの交流や相互の情報交換を行うため、次のとおり館外研修を実施しました。

i 令和4年度

11月 宗像大社、神宝館（宗像市）（参加者：14名）

ii 令和5年度

11月 九州歴史資料館（小郡市）、
石炭産業科学館 他（大牟田市）
（参加者：23名 他部会3名を含む）

iii 令和6年度

9月 いのちのたび博物館（北九州市）、
TOTOミュージアム（北九州市）（参加者：17名）



館外研修風景（九州歴史資料館）

② 館内研修

九博の職員を講師として、博物館の建物構造や設備に関して、より知識を深めるとともに能力向上を図ることを目的として研修会を開催しました。

また、日本語部会のメンバーを講師として、エントランスホールに設置されている博多祇園山笠（飾り山）に関して、自主研修を行いました。

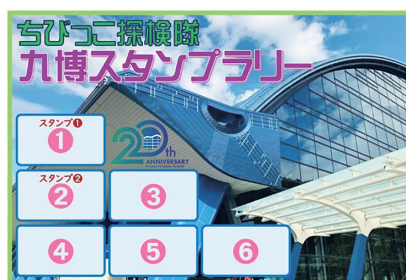


館内研修風景

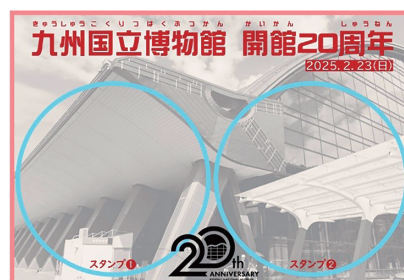
(5) イベント等への参加

① 子どもフェスタ

コロナ禍で中止が続いていた「子どもフェスタ」が、令和7年2月に再開されました。日本語部会では、「ちびっこ探検隊 九博スタンプラリー」と題し、博物館全体を舞台としたスタンプラリーを実施しました。



スタンプカード（表面）



スタンプカード（裏面）

② その他のイベント

その他のイベント活動には、部会員の有志が積極的に参加し支援しています。

3 おわりに

ボランティア6期生の活動は、コロナ禍による約2年間の活動休止を経てのスタートとなりました。マスクの着用義務や手指消毒の徹底など、依然としてコロナ対応が求められる中、状況を見極めながら、徐々に活動内容を平常時へと戻していく形となりました。活動実績はまだまだコロナ禍前の状態には戻っていませんが、日本語部会としては、来館者に対して「おもてなし」の精神で接し、サービスの向上を図るという当初の目的を、ある程度達成できたのではないかと考えています。

先輩方がさまざまな課題に取り組み、調査・研究を重ね、資料を収集したうえで作成された「案内用マニュアル」を基に、来館者への説明を行っています。さらに、個々のボランティアが収集した新たな情報を加えることで、解説内容の充実にも努めています。

また、これらの博物館情報を来館者に分かりやすく伝えるためには、案内技術の向上も重要です。そこで、館外研修として他の博物館などを訪問し、他施設の案内ガイドの方法やノウハウを実際に体験することで、ガイドスキルの向上に努めました。

九州国立博物館は今年で開館20周年を迎えましたが、ボランティア活動が継続していることも素晴らしいことだと思います。これまでの活動内容を大切に継承しつつ、新たな取り組みを加えることで、博物館の入館者増加と活性化につながることを期待しています。

来年度からは、7期生となる新たな部会員を迎え、日本語部会のさらなる充実と発展を目指します。6期生と7期生が互いに協力し、切磋琢磨しながら活動を進めていきたいと考えています。

1 はじめに

英語部会ボランティアは、1階ボランティアカウンターをステーションとして、主に外国からの来館者に対応します。館内に関するさまざまな英語での問い合わせへの対応や、来館者のご要望に応じての1階の館内案内や4階文化交流展示室入口前の展示物の案内を行います。また事前に予約された海外からの来館者に対して個別に館内の説明や免振層や2F収蔵庫のバックヤードツアー行っています。また国内の学校や団体への日本語での説明につきましても対応を行いました。2023年度からは、交流課の方針で従来は交流課の方々にて行われていたスクールプログラムや、日本語部会にて行われていた日曜日のバックヤードツアーにも希望者が参加しています。以下に、この3年間の活動を報告いたします。

2 部員の構成（2024年12月現在の登録者）

第5期：7名（女性5名 男性2名）

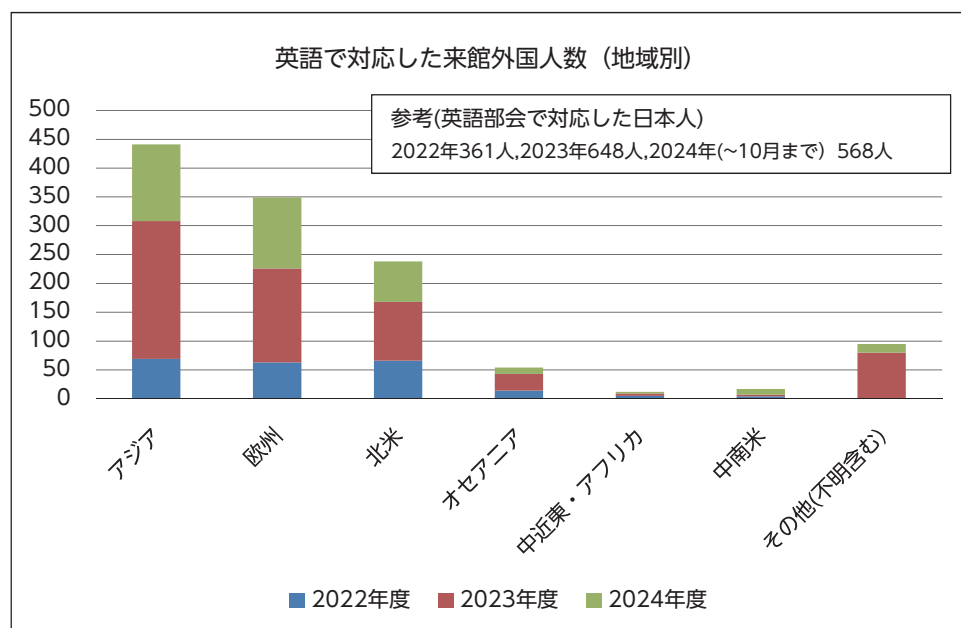
第6期：10名（女性8名 男性2名）

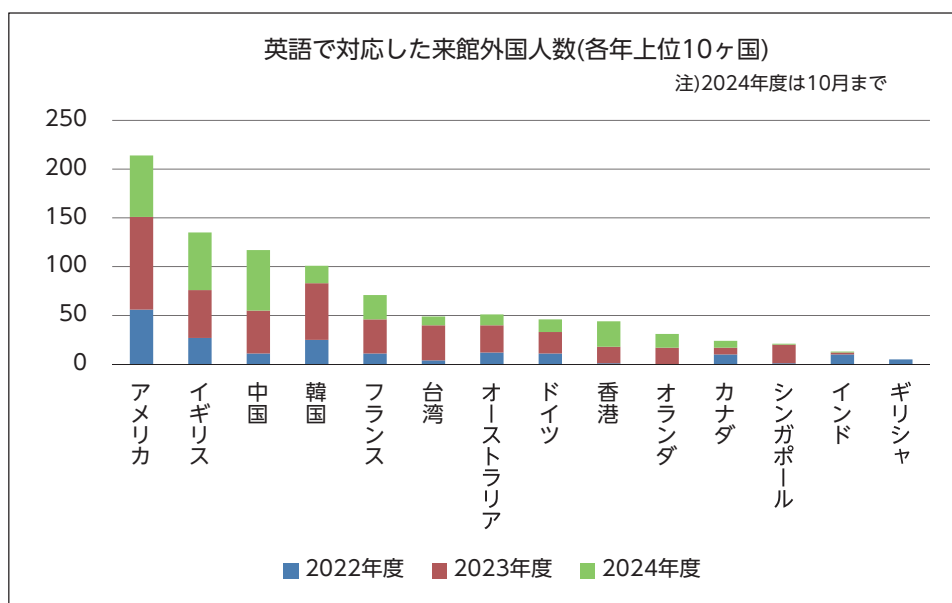
3 活動状況

（1）来館者の動向

（ボランティアカウンターにおいて英語で対応した外国人の来館状況2024年度は9月までの集計）

アジアからの来館者が最も多く、続いて欧州、北米からの来館者が多い傾向は従来と同じです。ただし、コロナによる出国規制の影響などでアジアからの来館者は従来に比べて減少している様です。





(2) 活動概況

6期生の活動はコロナによって活動開始が遅れ、2022年度から5期生と一緒に始まりました。最初は、交流課職員の方や5期生による研修を行いました。2023年度からは、部会におけるノウハウ共有や自分達での模擬バックヤードツアーの練習等を行って対応能力を深めていきました。

英語による団体への対応

2022年度：九州大学農学部留学生

2023年度：米国人旅行者、福岡 SGG クラブ、別府大学留学生、福工大付属高校留学生、APU 立命館アジア太平洋大学留学生

2024年度：LAENNEC FUKUOKA 2024（腎臓病関係のカンファレンス）、ハワイからの旅行者、5GCMEA（第5回マイクロ波応用に関する世界会議）、タイからの旅行者、国際沖縄少林寺流誠心館ニュージールランド支部、九州大学農学部留学生



APU 立命館アジア太平洋大学留学生



九州大学農学部留学生

日本語による団体への対応)

2022年度：ふくおかワンヘルスツアー、久原小学校、吉井小学校

2023年度：スクールプログラム（角田小学校、赤中学校）

2024年度：桂川小学校、太宰府高校、スクールプログラム（日の里小学校、椎田中学校、山川中学校）

その他)

2022年度、2023年度：留学生の日のサポート

4 館外研修

館外研修において現地ボランティアによる英語での説明を受けました。他の部会の方々も参加されましたので、日本語での説明も用意いたしました。

2023年度（11月4日）研修先：熊本城

2024年度（10月11日）研修先：宗像大社と新原・奴山古墳



2023年度 熊本城



2024年度 宗像大社と新原・奴山古墳

5 部内親睦会

コロナの影響もあって長時間の密集形態を避ける為に、博物館近くのお店や1F喫茶室にて茶話会を実施しています。

2022年度：11月

2023年度：6月、12月

2024年度：5月、11月



6 おわりに

振り返ると6期生としてボランティアに参加してあっという間に3年間が経過しました。他のボランティアの方々も同様ですが、コロナで開始が大幅に遅れました。実際に活動できるメンバー数も当初より大きく減り、特に活動初年はマスクの着用等の活動への制限もあった3年間でした。ただし、活動をつづけた6期のメンバーは初年度と比べると格段の説明技術の上達があって、自信をもって案内が出来る様になったと思います。これからも一層切磋琢磨してまいりたいと思います。

1. 中国語部会第6期部員数

6名（男性2名 女性4名）

2. 活動方針

- ① ボランティアカウンターでの案内（中国語、日本語）
- ② 博物館の行事に部会としても積極的に参加する
- ③ 事前予約のある団体に対して部会として対応する

3. 活動内容

○ 館内案内

ボランティアカウンターにて他の部会（日本語部会、韓国語部会、英語部会、手話部会）と協力して館内の案内活動

○ バックヤード案内

小、中、高校生（4グループ、1グループ約10名）を対象とした館内、バックヤード案内を実施（2022年10月12日、10月28日、11月15日の3日間）。

初めての案内で少し戸惑いもあったが、子供たちの熱心に聞き入る態度に接し、大いに元気付けられ、その後の案内に自信を持てるようになった。

○ 留学生イベントへの参加

2022年11月3日交流課主催の、留学生（20名）を対象とした「茶道体験×バックヤードツアー」に英語部会と共に参加。

・ バックヤードツアー

バックヤードツアーコース

守衛室 → トラックヤード → 大型エレベーター → 展示ケース →
展示ケース → 燻蒸機 → 展示室 → 鷹島ケースで温湿度計測のはなし →
出島ケースで照明のはなし → 4階エレベーター前で飾り山と燻蒸のはなし

・茶道体験

九博敷地内に建てられた茶室「宝満亭」で行われた茶道のお点前体験に参加し、茶室の作りや、お点前作法について留学生と共に学び、体験する。

交流課職員の黄さん作製の中国語のレジュメを参考にして留学生と会話をし、楽しい時間を過ごせたのが良い思い出となる。



○各種イベント 研修会への参加

年4回開催される特別展、文化交流展、ミュージアムトーク、館外活動、研修会等の各種イベントに積極的に参加することにより、専門的知識や能力の向上のための自己研鑽に励むことができた。

・「バックヤードツアー 免震層のガイド」研修会（2024年7月7日）

免震層の詳細な説明やバックヤードのわかりやすい案内の仕方を見学し館内案内の参考となる。

・「発達障がいについて学ぶ」研修会（2024年6月4日）

配慮の必要な方々への理解を深めた。

○「きゅーはくきやらばん」のお手伝い

2023 11月19日「春日市クローバープラザ 家庭の日まつり」民族楽器体験

2024 3月24日「うきは春の古墳まつり」古代衣装体験

2024 6月2日「ムナカタ古墳フェス」古代衣装体験



○別府大学留学生への館内案内（2023年7月7日）



○中国環境局研修視察職員への館内案内（令和6年11月17日）



○定例会後の部会を月一回行い、情報共有を図る

各月の定例会終了後（15時ごろ）ボランティア室にて中国語部会を開催し、定例会での情報共有や活動の打ち合わせをおこなう。

○第7期ボランティア募集活動への協力（2024年9月～12月）

全7回行われた第7回ボランティア説明会における各部会紹介に参加。各回に最少2名が参加するように分担し、希望者に中国部会の活動を紹介

第1回	9/22	第2回	10/5	第3回	10/14	第4回	11/1
第5回	11/12	第6回	11/23	第7回	12/1		

4. 語学研修

中国語の語学能力向上をめざし、交流課職員の黄さんの指導により、館内案内やバックヤードツアーの中国語版レジュメを部会員一同で作成。おおよその形は出来上がったが、今後の更なるブラッシュアップが必要と感じた。

5. おわりに

少人数で細々と活動をしてきたが新しく7期の方々を迎え、今まで以上に九州国立博物館ボランティア活動を頑張っていきたいと思う。

1 はじめに

館内案内韓国語部会は、主に韓国からの来館者を対象に、韓国語を用いて、九州国立博物館（以下、九博）の施設設備や常設の文化交流展示室（4階）前の展示物等を紹介・案内する活動を行っています。「안녕하세요（アンニョンハセヨ・こんにちは）」と笑顔で話しかけることから、心の通う民間での日韓交流を目指しています。

2 主な活動

（1）館内案内

i 5期；5名、6期；8名、計13名（2024・12月現在）で活動しています。

ii 定例部会；月1回、第4日曜日午前

毎月開催の各部会等代表者会において説明される九博の行事予定や連絡事項等を部会場で伝える、或いは部会独自の研修活動等について部員全体の共有を図るようにしています。

iii 主に韓国からの来館者を対象に、館内案内をしています。

- 韓国からの団体の来館申し込み（予約）が入った時は、九博の交流課と協議しながら部会の受け入れ体制を整えて案内の準備・事前練習などに取り組みます。

2023年2月 ソウル大学教授方を案内

2023年7月 別府大学留学生館内案内

2024年2月 「人文歴史のアカデミー講座」
受講生案内

※韓国国内で開講されている文化講座

2024年5月 韓国国立公州博物館学芸員
武寧王イベント参加者案内

- 韓国からの個人旅行の来館者に対しては、エントランスホール（1階）内の語学ボランティア受付カウンターに直接依頼して来られる方以外にも声掛けをして案内するよう努めています。



模型の解説



解説の前に記念撮影

iv 九博の事業（スクールプログラム）への協力支援として

プログラムに応募して来館する、主に福岡県内の小中学校の子どもたち向けに、九博の事業を紹介したり、バックヤードや1階館内の案内をしています。

(2) 勉強会（自主研修）

- i 館内案内のマニュアル原稿をもとにした韓国語案内の練習（韓国語部会在籍の小椋ウンジュ氏にマニュアルを録音してもらい練習）エントランスホールと常設展示室前の展示物について、案内原稿をもとに皆で読み合わせしたり、担当箇所を分担して個人発表をしたりするなどして反復練習を重ね、1人ひとりの力量を高めることに努めています。（案内役1人に対し残りは来館者という役割を毎回交代しながら）

- ii 想定問答集をもとに、来館者からの質問にどう答えるかの対応力を高めています。

来館者を案内している途中に、思いがけない質問を受けることもよくあります。そんな状況にも落ち着いて対応できるように、様々な質問を予め想定し、どのように説明を返すのが最も適切か、皆で協議しながら語学力を高める研修しています。

- iii フィールドワーク研修

2023年10月29日

「新発見!! 太宰府天満宮をくまなくウォッチング」

太宰府天満宮や周辺に残る歴史的建造物や史跡を実地にめぐり、歴史の町太宰府についても知識を深めるようにしています。（奥の院、天満宮社殿、天満宮大鳥居、御神牛像、旧天満宮別当延寿王院（現西高辻家邸宅）、天満宮の参道など）



館内案内自主練習の様子



フィールドワーク研修の様子

3 ボランティア研修（博物館・韓国語部会共同行事）

(1) 講演会

- i 佐島顕子先生による講演会（2024年1月28日）

- ・講師；福岡女学院大学人文学部現代文化学科教授 佐島 顕子 先生
- ・演題；「室町期から豊臣秀吉の時代における日本と朝鮮半島の文化交流」
- ・参加者；30人（韓国語部会員＋他部会ボランティア）
- ・内容；朝鮮半島との交流の窓口であった

九州・福岡の文化的・歴史的意義について；朝鮮使節として派遣された宋氏の日記（「老松堂日本行録」）に記載された当時の日本人の古い文化について 他



講演会の様子

ii 宮崎博司氏による講演（2025年1月26日）

- ・講 師：佐賀県立名護屋城博物館 学芸課長 宮崎 博司 氏
- ・演 題：名護屋城と大名陣跡の歴史
- ・参加者：45人（韓国語部会員＋他部会ボランティア会員）
- ・内 容：文禄・慶長の役の拠点になり、豊臣秀吉が築城した名護屋城跡について
全国から集まった武将たちの陣跡の様子や当時のエピソードについて

（2）館外研修（九州国立博物館振興財団のグループ活動支援制度を利用し館外研修を実施。）

i 2024年10月26日 佐賀県立名護屋城博物館・木下延俊陣跡・名護屋城址・唐津市鏡山見学



館外研修の様子

4 イベントへの参加

i 2024年1月13日

教育普及部会主催のワークショップ

「韓国すごろくユンノリ」

韓国語部会としても協力支援にまわり、ユンノリの遊び方を教えたり、一緒に遊んだりするなどして韓国文化の一つを体験してもらうとともに参加者のサポートに協力しました。

ii 2025年2月23日 九博主催「子どもフェスタ」

韓国文化を体験する企画で、韓服の試着や韓国の塗り絵、チマチョゴリの折り紙を作って配布などをしました。



ユンノリのイベント様子

5 おわりに

3年間の活動を振り返ると最初の1年間はコロナの影響でほとんどのイベントが中止になり来館者も少なく寂しいものでしたが、2年目になるとできることが増えてきてやりがい生まれ自分たちの館外研修も行けたし、他部会の館外研修に参加できたりして、とても有意義でした。来館者への案内、各種のフェア、研修、講演会等への取り組みを通じて貴重な体験を得ることができました。

経験豊富な5期の方々と一緒に活動することにより6期も成長できたと思います。今後、7期の人たちへこの成果をさらに素晴らしいものへとつなげていけると信じております。

最後に、当部会の活動にご支援をいただいた多くの関係者の皆様に心から感謝申し上げ、この活動報告書の終わりとします。本当にありがとうございました。

1 はじめに

私たち手話部会のメンバーは、手話と笑顔でお客様をサポートするボランティアです。手話学習者から手話通訳士までさまざまな手話経験をもつ人たちですが、耳がきこえない・きこえにくい人のことを念頭におきながら、楽しく活動を展開してきました。活動内容としては、

- (1) ボランティアカウンターでのお客様サポート
- (2) 手話通訳付きバックヤードツアー
- (3) 「さわって体験！本物のひみつ」の手話動画による文化財解説
- (4) 「みんな de きゅーはくを楽しもう!! 模型 de 博物館たんけん隊」の解説を手話通訳
- (5) 4階文化交流展示室の手話動画による文化財解説

など、さまざまな九博イベントで手話サポートをしています。

なお、令和6年度から手話部会主催で、毎月1回手話通訳付きバックヤードツアーや、九博のホームページ掲載情報に手話動画を付ける取り組みも実施しました。

2023（令和5）年4月1日に福岡県手話言語条例が施行されました。耳がきこえない・きこえにくい人が手話を使い、日常生活や社会生活を安心して営むことができる社会を目指すとしています。

「学校よりも面白く、教科書よりもわかりやすい博物館」そして、多くの皆様に親しまれる九州国立博物館を目指し、他の部会の人たちと共に活動していきたいと思っています。



現在17名で活動しています（部会の様子）

2 具体的な活動内容

- (1) ボランティアカウンターでのお客様サポート
 - ・来館者からの質問対応と1階エントランス案内（手話、日本語にて）
 - ・手話と日本語で1階エントランス案内ができるよう部内練習会の実施

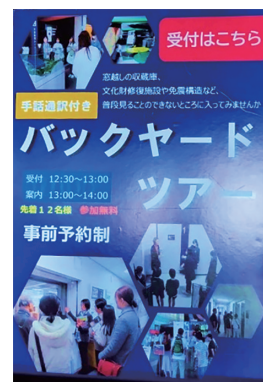
(2) 手話通訳付きバックヤードツアー

〈対象 聴覚障害者とその同伴者〉

- ・令和5年3月4日 Zoom オンラインにて実施
- ・令和6年3月2日 対面にて実施（コロナ後）
- ・聴覚障害者生活訓練教室館内見学
（ろうあ者23名+通訳2名参加）
実施日 令和6年11月30日
手話通訳5名、全体サポート3名

〈対象 一般参加者〉

- ・令和6年5月～手話部会主催バックヤードツアー開始
実施日 毎月1回（日曜日）
九博ホームページにて参加受付（先着12名）
時間 13時～14時



手話通訳付きバックヤードツアー看板



手話通訳付きバックヤードツアーの様子

(3) 「さわって体験！本物のひみつ」手話動画による文化財解説

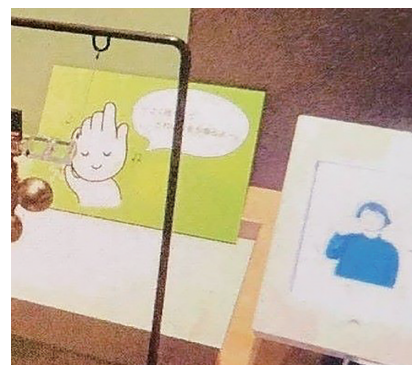
① 実施日 7(8)月～10月

場 所 4階文化交流展示室

内 容 展示される各文化財の側にタブレットを設置
手話動画による解説

撮影までの準備

- ・4月 学芸員の方からの解説と解説文の確認、
作品（手話）担当決め
- ・5月 練習会
- ・6(7)月 撮影



手話動画付き解説用タブレット↑

② ミュージアムトーク

- ・学芸員の方による解説の手話通訳
- ・令和6年度の実施日 8月31日 移動解説の手話通訳（30分程度）

(4) 「みんな de きゅーはくを楽しもう!! 模型 de 博物館たんけん隊」の解説を手話通訳

- ・模型を使って九博の建物を探検、建物のヒミツ紹介手話通訳
- ・令和6年度の実施日 11月17日手話通訳6名、全体サポート4名（他部会連携サポート）



「みんな de きゅーはくを楽しもう!! 模型 de 博物館たんけん隊」

(5) 4階文化交流展示室の文化財解説文の手話動画制作（令和4年～）

・手話解説動画撮影済みの作品と案内掲示

展示室ガイドンス/1.テーマ・丸木舟/東の土偶西の土偶/2.テーマ/弥生の王墓/沖ノ島出土品/
第4室にぎやかな古墳のマツリ/宮地嶽古墳出土品/3.テーマ/鬼瓦/密教法具/第6室アジア人の
理想の姿/釈迦菩薩立像/世音寺梵鐘/多宝千仏石幢/遣唐使船復元展示/4.テーマ/元寇と鷹島沈
没船/南蛮美術/書院の茶と唐物/埋蔵銭/5.テーマ/火縄銃/長崎出島平戸/欧州を魅了した伊万里
焼/4つの口/倭人伝の世界/多彩な江戸文化/交流する中世の人とモノ/寄贈者顕彰室/金子重量記
念室/アジアを旅する/遣唐使の時代/九州陶磁の華

(6) その他

① 九博ホームページ手話動画制作（令和6年～）

i 九博ホームページに掲載する九博情報の動画撮影までの日程

令和6年

2月 九博展示課との話し合いが始まる

4月 館情報最終確認作業

6月 台本確認と手話の表し方の確認作業

7・8月 練習会

9月 撮影(9月11日(水)7名、9月15日(日)4名)

10月 手話動画に字幕が出るタイミング等の確認作業

ii 初めての試みとして

令和6年8月21日(水)福岡市ろうあ協会会長に私たちの手話表現について確認して頂きました。

内容と手話の表し方の方法を修正し再度確認という作業を繰り返し行い、やっとOKを頂き撮影となりました。撮影後の手話動画に字幕を付けますが、日本語や字幕の出るタイミング等の確認も行い完成となりました。



字幕確認作業の様子

② 令和6年度より手話部会がこれまでの「連携グループ」から「九博ボランティアグループ」所属になりましたので、初めてボランティア（第7期）説明会に参加しました。



ボランティア説明会

3 おわりに

- ・今年度は初めての試みとして手話付きバックヤードツアーの自主計画や、ろうあ協会の協力のもと九博ホームページ動画の手話監修をして頂きました。
- ・コロナ前には出来なかったいろいろな事が、ひとつ又ひとつと実現できつつあります。
- ・私たち手話部会が九博で使っている手話をいくつか紹介します。(動画付き)



太宰府
(梅という手話)



九博
(九州+九博の屋根の形で表現)



あじっば
(アジア+原っぱ)



はにわ
(埴輪の形)

皆さん今年度も活動お疲れ様でした。手話部会では、今年度も色々なイベント通訳、展示品解説動画制作などがありましたが、部員の方々のチームワークで無事に役割を果たす事ができたと思います。なかでも九博ホームページへの手話動画制作がスタートしたのは大きな一歩でした。

私はとえば何とか「枯れ木も山の賑い」にでもなれたかと思っています。(反省)

来年度は新しい7期の方々を迎えます。皆で心を合わせ、来館頂く方々に楽しんで頂ける様に、そして再来館者が増える様に努めたいと思っています。

5期 高野

5期の皆さま、3年間本当にお疲れ様でした。コロナ拡大による活動制限の中でも、皆さまが学び続ける姿に深く感銘を受けました。また、ボランティアカウンターやバックヤードツアーでの、とても分かりやすく魅力的な解説から多くのことを学ばせていただきました。これからは、手話部会そして九博ボランティアグループの一員として7期の皆さんを支えていきたいです。

本当にありがとうございました。

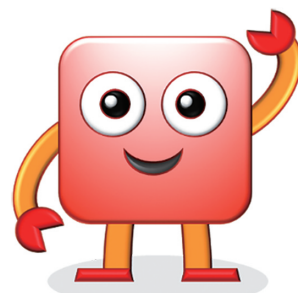
6期 渡邊

1 はじめに

九州国立博物館は、何百年、何千年もの過去から大切に守られ引き継がれてきた沢山の宝物＝文化財を保管・展示しています。

その貴重な宝物をカビや害虫から守る「総合的有害生物管理（IPM）」という、できるだけ薬剤に頼らず、予防に重点をおいた取り組みを行っており、環境ボランティアは、文化財を取り巻く館内環境に対して、博物館科学課と連携しながら文化財保護のために必要な物品の作成や館内の観察を行っています。

この環境ボランティアの様々な活動や研修を通して、長い歴史の中で守られてきた文化財を今後も守っていくことの大切さや、その一部を私たち環境ボランティアも担っていることを感じ取ることができましたので、ここに報告いたします。



環境部会マスコットの
「インジケータ君」

2 部員構成

任期を1年として代表1名、副代表2名を選出。そのほかのメンバー全員で5つのグループ【準備班、記録班、東風班、館外研修班、子どもフェスタ班】を構成し、基本活動やイベントに自主的に参加しています。

3 活動内容

（1）基本活動

「見守ること」「観察すること」「継続すること」が基本です。

館内での活動は来館者の妨げにならないように、来館者が多いときは時間帯を変更する、作業中の会話やライトの使用を控えるなどの配慮をしながら活動します。



インジケータ組立

① インジケータ（粘着トラップ）組立

毎月2回の活動で、全館内に設置されるインジケータ約450個を組み立てます。

② インジケータ（粘着トラップ）交換

毎月1回、虫の生息を調査するために館内に設置されている100個のインジケータを交換します。



インジケータ交換

③ IPM ウォッチング

毎月2回、各ボランティアが五感を生かして館内をパトロール（観察）し、ほこり・ごみ・汚れ・虫・カビ・におい等を記録して博物館科学課へ報告します。（新型コロナが流行した休止時期を経て2024年度に再開しました。）

1階エントランスを観察しています。



IPM ウォッチング

④ ガス吸着シート準備（お花づくり）

ガス吸着シートを使ってお花を作ります。

⑤ 毛髪式記録用紙スタンプ押し

週ごと、月ごとに記録する記録紙へ、場所の表示を行います。



お花づくり

⑥ その他環境保全にかかわる活動（随時または1、2回/年）

- 毛髪湿度計記録用紙A4バインダーファイルリサイズ活動

場所を占有しているA4バインダーファイルから厚紙綴じへ変更してキャビネットスペースの効率化を図りました。（2022年）

- アートソーブ仕分け

使用済みのアートソーブ（調湿材）を再利用するため種類別に仕分けします。

- 文化財用布団づくり

文化財を梱包するための綿布団を包む薄葉紙を取り替えます。

- 仮張りはがし

文化財の修理に使う板から、残っている糊や紙をはがします。



布団づくり



仮張りはがし

（2）環境ボランティアの研修

① IPM サポートセンター研修（2022年）

IPM サポートさんの活動見学・体験（2024年）

② 屋外研修

- 九博の森の野鳥観察研修（2022年、2024年）
- 館周辺の虫、植物に関する現場研修（2023年）



③ 博物館科学課による小話会（2、3回/年）

- タケ食う虫の話（2022年）
- タバコ造りとシバンムシ（2022年）
- 文化財の空気汚染 ― 吸着シートとお花づくり（2023年）
- 九博の文化財修理（2023年）
- 文化財保存・修復の歴史（2024年）



小話会

(3) 館外研修

各館での IPM 活動や文化財環境管理を学ぶことにより、環境部会ボランティアとしてスキルアップを図ることができました。

また、担当職員（研究員）とボランティアとの協同連携が、イベントの魅力や多様さ、ボランティアの質の高さ等に成果として現れていると感じ、改めてボランティアが果たす役割とその重要性について学ぶことができました。

・九州歴史資料館（2022年）



・伊都国歴史資料博物館、九州大学図書館伊都キャンパス（2023年）



伊都国歴史資料博物館



九州大学図書館



・長崎歴史文化博物館（2024年）



(4) 子どもフェスタ（2025年2月23日）

- ①「折り染めに挑戦してみよう」
- ②「縄文土器の文様をまねてみよう」

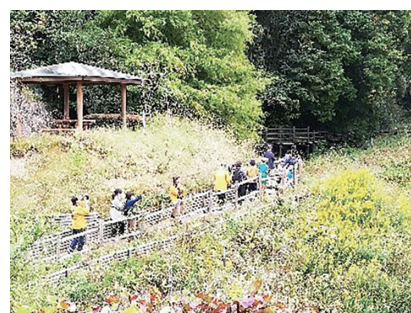


(5) グループ活動（「あつまれ九博の杜」への部会としての参加）

- ・「九博の杜」の植物で版画を作ろう（2023年）



- ・「九博の杜」をスマートフォンで撮ってみよう（2023年）



4 おわりに

コロナの影響もあり、活動が思うようにできない時期もありましたが、感染状況を見ながら活動を少しずつ再開することができました。そのような中でも布団づくりや仮張り剥がしなどの新たな活動も増え、また館内ウォッチングも再開することができました。

私たちの活動は来館者への直接的な関わりはありませんが、たくさんの宝物を守るために必要な役割であると改めて感じ取ることができました。今後も文化財が後世に引き継げるよう、環境ボランティアとしての役割を果たしていきたいと考えます。



1 はじめに

私たちイベント・サポート部会は2022年5月に旧イベント部会と旧サポート部会が統合され、新しい部会として発足しました。

最初は「私たちの使命って何?」「私たちに何ができるの?」を議論する所から始めましたが、旧イベント部会は先輩もおらず記録もないため、そのまま活動を引き継ぐ事はできず、すぐに議論はまとまりませんでした。まずは旧サポート部会の先輩の指導で『ボランティア広報紙「東風」の発行』を引継ぐ所から実務的な活動を初めました。

やれる所から始めたものの不安感一杯のスタートでしたが、それでも「何をすべきか」を模索しながら少しずつ活動の幅を広げていきました。振り返ると「東風」発行がスムーズに回り出し、「きゅーはくきゅらばん」のお手伝いにも慣れてきた頃から、部会としての活動の方向性がようやく見えてきて、少しは安心して落ち着いた活動が出来るようになってきたように思います。そしてそれからは「何をすべきか」の模索は「新しいアイデアを考える」に変わり、現在は以下の3つを柱として、「健康第一、明るく楽しく!」「出来る時に出来る事を!」をモットーに活動を進めています。

(1) ボランティア広報紙「東風」の発行

A4サイズ4ページのボランティア向け広報紙の発行を行います。

(2) イベントの企画・実施と九博イベント支援

ワークショップ等のイベントを実施し、また九博イベントの支援を行います。

(3) ボランティア全体のサポート

ボランティア室の管理等、ボランティア全体をサポートする活動を行います。

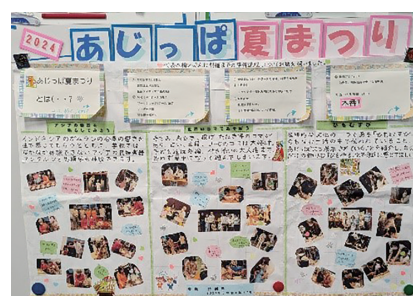
2 部会について

(1) ボランティア広報紙「東風」の発行

「東風」は九博の委託を受けて発行している広報紙ではなく、イベント・サポート部会が自分たちで発行するボランティアのための広報紙です。

「東風」の発行を通じてボランティア全体の活性化を図り、来館者サービスの向上に繋げる事を目的としており、ボランティアの今の活動を将来入ってくる後輩のボランティアに引き継いでいく役目も担っています。

「東風」の発行は2008年度にスタートし、ほぼ年4回のペースで発行を続け2024年度までに54回の発行回数を数えました。また、イベントの様子をタイムリーに発信するため写真をメインとした「東風壁新聞」も発行し、ボランティア室に掲示しています。



〈作業の内容〉

① 企画、紙面デザイン

掲載する記事の内容、紙面デザイン、記事の文字数等を検討します。

② 連絡会議の開催

レイアウト・記事内容を説明し、掲載予定の部会・グループに原稿作成を依頼します。

③ 編集、校正

執筆者から提出された原稿を入力・編集し、内部校正を行います。

その後に原稿作成者に内容確認をお願いし、校了になるまでこれを繰り返します。

④ 館承認、印刷

校了データを交流課に提出、館承認後に交流課から印刷手配をして頂きます。

⑤ 印刷物の配布

印刷物が出来上がったらボランティア全員に配布します。

また、出来上がった「東風」は交流のある博物館などへも交流課から送付してもらいます。

(2) イベントの企画・実施と九博イベント支援

イベント研究会と一緒にワークショップを企画・実施し、研修・体験を行いました。

また、九博主催のイベントのお手伝いや他部会のイベント開催支援を行いました。

※イベント研究会はイベント・サポートメンバー中心にいろいろな部会から参加しているメンバーでワークショップを企画・実施するグループです。

① ワークショップやイベントの企画・実施

2022年度 「はらのむしエコバッグを作ろう」

「古筆フレームを作ろう」

「ハラノムシご祝儀袋を作ろう」

「織り機でコースターを作ろう」

2023年度 「クラフトバンドでコースターを作ろう」

「干支のお年玉袋を作ろう」

「水引でアクセサリーを作ろう」

「エコバッグを作ろう」

2024年度 「エコバッグを作ろう」

「織り機でコースターを作ろう」

「水引でアクセサリーを作ろう」

「干支のお年玉袋を作ろう」

「きゅーはくの森からお便りを送ろう」

「真珠核で文房具を飾ろう」

「西村麻里 ライブイベント」



② 研修、体験等の実施

2022年度	・アトリエ MISHMASH	「ミニロボットを作ろう」体験
	・九州歴史資料館	「デジタル系ワークショップ」見学
	・福岡おもちゃ美術館	「電動糸のこで木のおもちゃを作ろう」見学
	・竹細工ワークショップ	「コースターを作ろう」体験
2023年度	・福岡市科学館	「作ろう！動く紙コップザウルス」見学
	・博多町屋ふるさと館	「水引梅結び、干支結び」体験、展示見学
	・博多伝統工芸館	「博多張子の絵付け」体験、展示見学
	・博多町屋ふるさと館周辺	「博多の町探訪」博多の町歩き体験
	・樋口真珠	「真珠核加工」見学、「真珠核 WS」体験
	・九州陶磁文化館	「館長のお話と交流会」実施、展示見学
2024年度	・太宰府館	「木うその絵付け」体験



③ 九博主催のイベントのお手伝い

- ・交流課「きゅうはくきやらばん」のお手伝い

九博の外に出かけ、「あじっば」のコンテンツを体験して頂く活動のお手伝いで馬頭琴や中国コマを教えたり、モンゴルのシャガイ（羊のくるぶしの骨を使った占い）で一緒に遊んだり、竹楽器アंकレンで合奏したりしました。これまでに近郊の小学校、博物館、イオンやソラリアプラザ等の商業施設に出かけました。

- ・教育普及部会「あじっば夏まつり」のお手伝い

「東風」の取材、準備・片付けなどのお手伝いを行いました



④ 他部会のイベント開催支援

- ・フィールド部会のワークショップ企画・実施のお手伝い
- ・学生部会のワークショップ実施のお手伝い

(3) ボランティア全体のサポート

① ボランティア室の管理

- ・ 棚の上部の区切られていないスペースの管理
棚の上に置かれた荷物は部会名の記入と整理をお願いしています。
- ・ ボランティア室の使い方指導
共有 PC の使い方、申請書の書き方他、各部会の要請に応じて指導しています。

② ボランティア室の備品の管理

- ・ 蔵書の管理
蔵書にラベルを貼り蔵書目録を作成して蔵書の管理を行っています。
- ・ 共有 PC の管理
デスクトップの使用状況を見て不要ファイルの整理を行います。

③ 共有の文房具、共有のワークショップ材料の管理

- ・ 鉛筆、ホッチキス、セロテープ、マジック、パンチ、ハサミ、色紙 他

3 おわりに

3 年間様々な活動を行ってきましたが、私たちの活動は交流課の皆様や各部会の皆様のご協力なしには進められなかったものが大半でした。

広報紙「東風」の発行では当初各部会の連絡員になって頂いた方の顔すら分からず、連絡会の開催通知をお渡しするのにも苦勞しましたが、皆様の顔を覚えるに従ってスムーズに活動を進められるようになり、改めて人と人との繋がり大切さに気付かされました。

ワークショップの企画・実施では、アイデアを考えては試作を繰り返し、全員が教えられるように練習を重ね、結果として参加者に「楽しかった」「またやりたい」と言ってもらえた事は大きな喜びでした。また、企画段階でも実施段階でも様々な課題が発生しましたが、解決への取り組みそのものが社会勉強となり生涯学習の一環となって得難い経験をさせて頂いたのではないかと思います。

部会では議論してまとまった事、まとまらなかった事、私たちではどうにも出来ず交流課に相談した事、それから交流課から注意を受けた事、等々全てが楽しい思い出です。

ご指導頂いた交流課の皆様、ご協力頂いた各部会の皆様に感謝すると共に来年度から新しく九博ボランティアに参加される皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

本当にありがとうございました。



1 資料整理部の経緯

資料整理部が発足したのは2008（平成20）年4月、秋吉^{はじめ}元さんから寄贈された郷土人形について調査の必要に迫られ、分類基準・調書作成マニュアル等を決め、調書の作成、それらのデータ化の作業を1期から5期の資料整理部会で引き継いで行ってきました。これらの秋吉コレクションの展示はテーマを決めて年3回、1階のあじっぱ広場奥のあじぎらで行ってきました。

2020（令和2）年3月、コロナ感染防止のため、九博は突然休館となり、ボランティア活動は中止とされました。展示準備が万端整っていた「こけし」は4階の収蔵庫で2024（令和6）年10月まで展示待ちの状態になりました。展示するテーマを決め、人形を選び、背景や説明書きを仕上げていた4期生は別れを告げることも出来ずに、ボランティアを卒業してしまいました。

収蔵庫に眠っている人形たちは、再び人の眼に触れるのだろうか？ 作ったデータは役に立つ日が来るのだろうか？ コロナの終息を祈ると共にこの人形たちの復活を願う日々を過ごしました。

2022（令和4）年4月交流課の皆さんの支援を頂いて部会再開、同年10月にあじっぱ広場での疫病退散をテーマにした久しぶりの展示、続いてエントランスでの展示、そして2024年10月、あじぎら再開となりました。3年半の待ち時間を経て、4期生が準備していたこけし達は、あじぎらで輝きました。

総数10000点を超える郷土人形・玩具類のデータ化は既に2020年度に終わっていたので、データ全体の整理とまとめ・仕上げ作業を交流課の地脇さんの強力な支援を得て残る5期生8名で終え、これを最後に資料整理部は閉鎖する事になりました。

2 部会について

2022（令和4）年4月13日より部会再開、目標を九州国立博物館ホームページへのアップそして一般の方々の閲覧を可能にすること、秋吉コレクションを皆さんに知って頂くこと事と決めて努力して行こうと活動を始めました。

（1）活動内容

① データ整理、仕上げ作業

手書き調書との照合、重複データ等の整理等、一覧リスト形式のデータとして完成させるために、チェック、見直し作業を毎週水曜日に行いました。



② 郷土人形等展示

○ 事前準備

テーマ決め、展示人形選び、ブース決め、題名・作者等データ確認、説明文作成、陳列カード作成、出し入れチェック表作成

※交流課に九博の展示として、チェックをして頂きます。

○直前準備 郷土人形展示マニュアル

受け継いできた作業です。人形を扱う作業の前に手洗いをし、時計、アクセサリー、ボランティア証をはずしておくこと。人形は両手で持ち大切に扱うこと。人形は必ずクッションシートの上に置くこと。倉庫での人形運び出し、1階での展示ケースの掃除、展示・片付け、必ず出し入れチェック作業を行うこと。展示作業は休館日に行いました。

○展示作業



収蔵庫搬出・収納作業



エントランス展示準備



あじぎやら展示

○撤収作業 番号等確認、梱包、片付け、掃除、収蔵庫への収納

③ 展示実績

○2022（令和4）年度



「疫病退散 蘇民将来 赤ぺこ」
10/17～7/3 あじぎば広場



○2023（令和5）年度



「天神さま」
3/13～4/24 エントランス

○2023（令和5）年度



「干支の人形 辰」
11/20～6/10 あじば広場

○2023（令和5）年度



「津屋崎土人形」
3/11～4/15 エントランス

○2024（令和6）年度

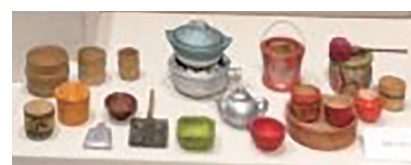
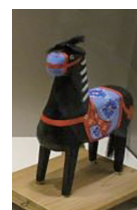


「こけし」 10/1～3/20 あじぎやら

3 おわりに

秋吉コレクションは全国各地から集められた地域の1万点を超える郷土人形、玩具類の収集品です。この人形たちを調べる日々は楽しい時間でした。郷土人形を調べることで、その地方の慣習、人々の暮らしを知り、想像することが出来ました。馬の取引が盛んに行われたため、東北では馬の郷土人形が多く、神社の授与品として多く作られたこと、また、寒い東北ではえじこという藁で作られた赤ちゃんを入れる籠が使われ、こけしにもえじこの嬰兒籠が見受けられました。弁当箱や日用品の玩具もあり、親の愛情や家族の暮らしぶりが見えてきます。

日本の郷土人形だけでなく、外国の資料も多く、これらすべては秋吉元さん^{はじめ}が出張先等で買い求められたもので、秋吉元さん^{はじめ}の資料に対する楽しさ、愛おしさが伝わってきます。中には廃絶となっている貴重な郷土人形もあり、この機会を頂いた事への感謝と共に、このコレクションが九州国立博物館の一部として、大切に伝えられていきますように。人形たちのデータ化に取り組んだ資料整理部一同の願いです。



あじっぱ広場にて

1 はじめに

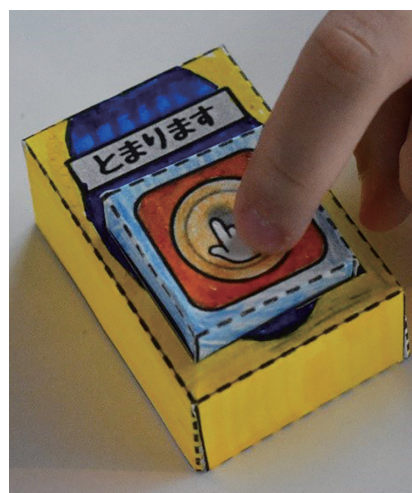
5・6期体制の活動は、約2年間のコロナ禍における活動休止期間の後に始まりました。そのため1・2年目はワークショップ調査や、他部会との合同活動を通して参加者と主催者の立場を経験し、3年目に集大成として、学生部会主催のワークショップを開催するに至りました。

2 学生部会としての活動

来館者にとっての思い出として、九州国立博物館（以下、九博）の魅力を伝える機会としてワークショップの企画・運営を行っています。

3 ワークショップ「きゅーはく号とストップボタン」

このワークショップでは、通常アウトリーチ活動で使われる“きゅーはく号”をバスに見立て、自分の住んでいる地域に“きゅーはく号”がバスのように停車するストップボタンを作ること、参加者と九博をつなげるという意味を込めて開催しました。開催日が夏休みだったため、より多くの子どもたちにとって九博の思い出になることを目的とした結果、福岡県内だけでなく関西や関東、さらに海外の方も参加され、合計約40人の方楽しんで頂きました。一人一人の個性的なデザインのストップボタンが生まれ、完成したボタンを子どもたちが何度も押す様子が見られました。



作成したストップボタン

このイベントは、5・6期体制になって初めて企画・準備・運営を学生部会主体で実施したもので、全員が慣れない事態に悪戦苦闘しながら進めることになりました。ワークショップの企画は通常、「九博のことを少しでも知ってもらうこと」を意識しており、今回はその実現のために、通常月に1から2回のペースで開催する部会で話し合い、試作を繰り返しながら企画案を具体化していきました。その過程で、多くの気づきや学びを得られたため、次期メンバーにも今までのノウハウやマインドを引き継いでいくつもりです。

企画運営の流れ

- | | |
|---|--|
| ① 開催日時・会場の決定 | ④ 当日の流れ確認
受付の仕方(整理券配布など)、実施回数、説明内容などについて確認。 |
| ② 企画案決定 | ⑤ 備品準備
会場設備・備品などの準備。 |
| ③ 企画案の具現化
作品の試作より、難易度、所要時間、必要な道具などの確認。 | |

学生部会のコミュニケーション

学生部会のメンバーは、学生、社会人、遠方在住など様々な事情があり、一堂に会するのが非常に困難でした。そのため、ワークショップの企画・反省等を含めた部会の実施は、オンライン会議ツール（Zoom）やコミュニケーションツール（LINE）といったオンラインの場で実施しています。

ワークショップ本番の様子



導 入

ペーパークラフトに入る前の導入として、九博のことやワークショップの意味などの説明をしています。

レクチャー

スタッフ1人につき、参加者2～3人を相手にペーパークラフトを教えています。



2年目まではワークショップの勉強のための活動を、3年目はこれまでの勉強の成果を発揮するような活動を実施しました。

表1 学生部会独自の活動

年	月/日	内容
2022	10/30	学生部会独自研修 第1弾 交流課職員による館内案内
2022	12/18	学生部会独自研修 第2弾 「なりきり学芸員体験」
2024	8/10	ワークショップ 「ペーパークラフトで作る！ 自分だけのきゅーはく号とストップ ボタン」
2025	2/23 (予定)	ワークショップ(九博子どもフェスタ) 「“ハネ”と“ハナ”どっちをえらぶ？ オリジナル標本しおりをつくろう！」

4 他部会との合同活動

他の博物館の見学やそこで開催されているワークショップの視察、他部会とのワークショップの合同開催を通して、アイデアや運営面などでのヒントを見つけるために実施しています。

5 ワークショップ調査「ロボット作り」

コロナ禍でボランティア活動が制限されている中、約3年ぶりにボランティアメンバーが対面で集まって実施したワークショップ調査です。このワークショップでは、木材やその他のパーツをボンドでくっつけてロボットの人形を作成しました。

各々がお気に入りのパーツを組み合わせてロボットを作成し、参加者として制作を楽しみつつも「この経験をどう自分たちの活動に生かそうか？」や、「子どもたちにとって選びやすいパーツの数はどのくらいがいいか？」など様々な思いを巡らせながら取り組みました。



6 合同ワークショップ「はらのむしエコバッグをつくろう！」

上記のワークショップ調査と同じ時期に開催した、久々のボランティア向けワークショップです。九博のポスターを再利用してエコバッグを組み立て、その表面にシールでできたはらのむしのパーツを貼って作成します。

合同とはいえワークショップの運営にあたって多少戸惑いはありましたが、5期メンバーにとってはワークショップの楽しさを思い起こす機会に、6期メンバーにとっては九博ボランティアとして初めてのワークショップ実施となりました。



表2 他部会との合同ワークショップ

年	月/日	内容
2022	8/21	はらのむしエコバッグをつくろう！
	10/16	古筆フレームを作ろう！
	12/4	ボランティア対象・干支の御祝儀袋を作ろう！
2023	3/12	織り機でコースターを作ろう！
	6/9	織り機でコースターを作ろう！
	9/30	クラフトバンドでコースターを作ろう！
	12/17	干支のお年玉袋を作ろう！
2024	3/10	水引アクセサリを作ろう！
	6/9	織り機でコースターを作ろう！

表3 ワークショップ調査

年	月/日	内容/場所
2022	8/6	大野城市/ロボット作り
	9/10	九州歴史資料館
	10/8	福岡おもちゃ美術館
	11/13	竹細工のコースター作り
	12/10	福岡市科学館
2023	7/30	博多街歩き
	9/10	はかた伝統工芸館/博多人形のダルマ絵付け体験
	10/15	博多街歩き

7 メンバーの活動の振り返り（2022年活動開始時/2024年現在）

▶手嶋 翔一 5期（社会人）

ワークショップは直接スタッフと参加者との対話が生まれる時間なので、博物館を知って頂く上でとても有意義な機会だと考えています。また、企画についてはメンバーみんなでアイデアを持ち寄ったり、方向性を検討してきたからこそ、個人のエゴではなく、皆の思いの詰まったイベントにできたと思います。九博を知ってもらいたい、博物館を楽しんでもらいたいという思いがこれからのユースにもつながっていくと幸いです。

▶姫野 美樹 5期（社会人）

コロナ禍があり、その間に各々生活形態が変化するなどで一堂に会しての活動が難しくなっていました。今年8月のワークショップではオンラインミーティングを活用したり、積極的に役割を引き受けたり、他部会にご協力いただいたお陰で開催に漕ぎ付くことができました。7期から学生部会はユース部会と名称変更するとともにU30の部会へと形態も変わります。体制が変わっても柔軟に、自由に、楽しく活動していきたいと思っています。

▶三宅 元氣 5期（大学院生/大学院生兼社会人）

5・6期体制で始まった学生部会ですが、私はそのタイミングで住まいが福岡から離れてしまったため、そんな自分に何ができるのか考えた結果、オンラインミーティングでの意見をまとめ、共有することを積極的に引き受けるなど、部会の進行役を積極的に行いました。来年度以降は部会の活動として、県外のイベントへの参加など活動の幅を広げられるよう、引き続き自分ができることを考えて実践していこうと思います。

▶永井 万貴 6期（社会人）

九博ボランティアは、「自主性」に重きを置いていますが、実際の活動をしてみて、それを肌で実感しました。活動内容を自由に決めてよい分、目的を明確にして取り組む必要があります。ワークショップの内容についても、部会内での議論を活発に行えたと思います。そして、実際にワークショップで参加者と触れ合いながら目の前で体験していただけるのは新鮮な体験でした。また、どの活動も部員や他部会、交流課の方々のサポートがあってこそできたことなので、感謝したいです。

▶大内田莉紗 6期（大学1年生/大学3年生）

学生部会を通して、最初はコロナウイルスの影響で思うように活動できませんでしたが、状況が緩和され2024年の夏にワークショップを開催することができ、いろんな方と関わることができてよかったと思います。そのワークショップで発見できた改善点を次のワークショップや活動に活かしていきたいです。



部会終わりの集合写真



「きゅうはく号とストップボタン」の時の集合写真

1. はじめに

フィールド部会は、5期生6名、6期生8名の合計14名で活動を行った。

フィールド部会は、将来実現するであろう九州国立博物館フィールドミュージアムの開設を見据えて、九州国立博物館（以下「九博」という）を取り巻く自然環境の保全・整備、遊歩道の維持管理を目的に平成29年4月に新たに創設された部会である。6期のボランティアは令和元年に募集が始まり令和2年から活動する予定であったが、コロナ禍の影響により実際の活動は令和4年4月から始まった。

2. 運営体制

令和4年度は代表1名（6期生）、副代表1名（5期生）東風連絡係1名（6期生）。

令和5年度は代表1名（6期生）、副代表2名（5期生1名、6期生1名）、東風連絡係1名（6期生）。

令和6年度は代表1名（6期生）、副代表3名（5期生1名、6期生2名）、東風連絡係1名（6期生）。

年々副代表が増えていったのは、フィールド部会主催のイベントが多くなったり、代表の負担を軽くするためである（ボランティアハンドブックによれば副代表は1名以上となっている）。

3. 通常活動

（1）主な活動内容

九博周辺の自然環境整備として、主に遊歩道の維持管理、山林の保全活動を行った。令和4年度の活動は遊歩道の側を流れている藍染川に堆積していた落ち葉や風倒木の撤去作業から始まった。小川であるが水分を吸った落ち葉や風倒木はとても重くその除去作業は重労働で大変な作業であった。それ以外は年間を通じて遊歩道周辺の除草や竹林での竹の伐採を行った。

（2）活動日及び活動時間

活動日時は毎週土曜日の午前10時から午前12時までとした。また、毎月第4土曜日は部会を開催し、館内の会議室で定例会の報告と今後の活動方針の打ち合わせを行った。時間が余れば遊歩道周辺の整備作業を行った。

ただし、猛暑日が続く夏場は熱中症予防や健康管理のため屋外での活動を自粛し、フィールド部会の部室（エアコン完備）において、イベントに必要な竹灯籠の制作や竹細工の練習を行った。また、天候次第では活動時間を1時間に短縮するなど部員の健康管理に配慮した。

4. 研 修

(1) 館内研修

野鳥観察会やお花をさがそう関連イベントにおいて専門家による屋外での研修を受けた。

(2) 館外研修

令和4年度は、宗像市立ほたるの里公園内の「ホタルの館」にて、むなかた水と緑の会及び宗像アサギマダラの会のボランティアからホタルの育成及びアサギマダラ（旅する蝶）の育成について説明を受けた。その後園内のホタルの生育地やアサギマダラが飛来するフジバカマ圃場を見学し、今後の部会活動の参考とした。



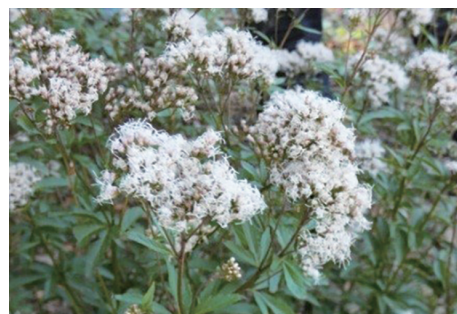
「ホタルの館」での研修風景



「ホタルの館」前で



ゲンジボタル飼育槽



フジバカマ

令和5年度は、ほけじ花公園（大分県日出町）と別府市竹細工伝統産業会館（大分県別府市）を訪問した。ほけじ花公園では樹木医の先生からアサギマダラの生態、飛来環境作り、フジバカマの生育管理、卵を産み付け幼虫の食草となるキジョラン、春に吸密するスナビキ草等の説明を受けた。



樹木医の先生による説明



ほけじ花公園のフジバカマ

その後、別府市竹細工伝統産業会館に移動した。同会館では、伝承されている竹細工技術についての説明を受けた後、竹細工の後継者確保・育成や伝統技術の伝承を目的とした竹の教室見学、竹ひごを使った「竹鈴」作りの体験学習を行った。

フィールド部会で開催する竹細工のイベントの参考になった。



竹細工技術についての説明



「竹鈴」作りの体験学習

令和6年度は、響灘ビオトープ（北九州市若松区）と海の道むなかた館（福岡県宗像市）を訪問した。ビオトープとは本来その地域に住む様々な生き物が安定して生息できる空間のことで、近年はビオトープの保全や復元を行う活動が広がっている。響灘ビオトープは北九州市若松区の廃棄物処分場にできた日本最大級のビオトープであり、埋め立て地の自然環境がどのように変化し、どのように管理していくかを詳しく学ぶことができた。



ネイチャーセンター（管理棟）



管理棟での研修風景

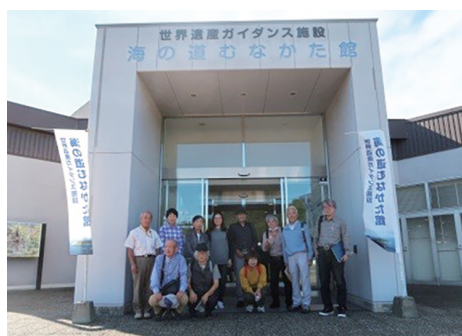


ビオトープ入口



ビオトープでの研修風景

海の道むなかた館では、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の説明を受け九博のボランティアとしてのスキルアップに努めた。



海の道むなかた館



地元ボランティアによる展示物の解説

5. 広報活動（イベント・ワークショップ）

- ① 旅する蝶アサギマダラを呼び込もう
- ② 九博の杜に生育する竹林の有効活用
- ③ ホタルの生育環境作りと保全、観察を行う

以上の3点を部会の基本活動方針とし、前出の館外研修もこれらの基本方針に沿ったものである。

（1）アサギマダラの飛来に向けて

令和5年にまず荒れ地を整地してフジバカマの圃場を作り苗の植栽を行った。また、圃場周辺にはイノシシが出没するため、その予防策として竹林から切り出した竹で鳴子を作り、圃場の周辺に吊るした。

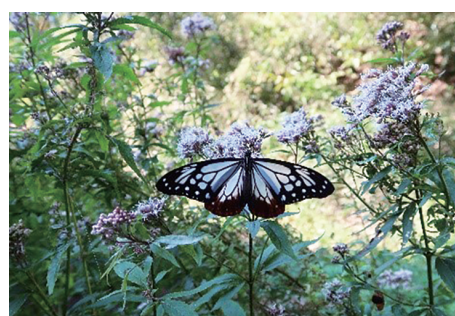
フジバカマは順調に育ち、植え付けて1年目であるにもかかわらず初めてアサギマダラの飛来を確認したときは全員狂喜の歓声をあげて小躍りした。10月から11月にかけて確認した飛来数をボランティア室の掲示板に記入した。合計20頭以上の飛来を確認したが、実際はもっと多く飛来したと思われる（活動日のみの確認のため）。

他部会の皆さんへのお知らせは勿論、遊歩道の入口付近にも来館者に向けて飛来のお知らせを掲示した。

令和6年は異常気象で猛暑日が続き、ほとんどのフジバカマが枯れてしまい、確認は10月末に1頭のみであった。



フジバカマの圃場整備



1年目圃場に飛来したアサギマダラ

(2) 竹林の有効活用

a. 七夕飾り

七夕飾りは、九博と太宰府天満宮を結ぶトンネル内で実施した。竹笹と短冊を用意し自由に願い事を書いて竹笹に吊してもらった。九博には海外からの来場者も多いため七夕飾りの紹介文を日本語、英語、韓国語、中国語で作成した。外国語の紹介文はそれぞれの部会にお願いした。七夕飾りは国際色豊かなイベントとなり短冊を常に補充しなければならないような盛大なものとなった。



トンネル内の七夕飾り



七夕飾りの各国の紹介文と短冊

b. 竹灯籠制作と点灯展示

竹林の有効活用の一環として屋外での活動を自粛している夏場に竹灯籠の制作に取り組んだ。他部会にも協力を呼び掛け、40点以上もの竹灯籠が完成した。

メキシコ展開催中の夜の博物館での点灯時には多くの来館者が足を止め、写真撮影したり、感想を述べてくれた。広報課より好評につき展示を続けてほしいとの要望があり、計2回延長して展示した。



部室での制作



竹灯籠の展示

c. 竹細工

竹ひごで花かごを作るワークショップを実施した。ほとんどの部会員が花かごを編んだ経験がなく、実施は危ぶまれたが、竹細工教室の講師を招き猛特訓した。ただ、企画からワークショップ実施までには2年の月日を要した。館内に持ち込むために竹ひごは全て煮沸消毒した。

ワークショップ当日は竹細工の講師も招き、参加者のテーブルごとにアシスタントとして部会員を配置した。参加者は23名（うち小学生4名）。試行錯誤しながらも参加者全員が花かごを完成させた。

小学生が母親に編み方を助言する場面も見られ、親子のコミュニケーションにもよいワークショップとなった。



イベント開催日



イベント実施中



イベントポスター



親子で楽しく作品づくり

(3) ホタルの生育環境作りと観察会

幸いに藍染川が竹林の上部から遊歩道近くを流れ、ビオトープの池に注ぎ込んでいるが水量はわずかである。

ホタルは川岸の土の中に潜って蛹になるので、川及び川岸に近づかないようにした。ゴミ拾い及び流木竹木の除去のみに留め、水の流れを維持した。

1年目、2年目、3年目と飛び交うホタルの頭数は増えていったが、観察会は夜なので部会員のみで歓声をあげながら楽しんだ。来館者や他部会のボランティアに披露できないのは残念である。

(4) その他のイベント等

お花をさがそうイベントに関連して花のプレートを竹で作製し設置した。

6. おわりに

フィールド部会の活動は、九博周辺の自然環境の保全を主な活動としている。

活動は5期生から新規スタートし令和4年に6期生が加わった。5期生は踏襲するものがなく一からの出発だったのでその苦労もひとしおだったと思われる。

景観を損なう倒竹の片付け、浦の田遺跡の除草、遊歩道沿いの除草や落ち葉かき、イノシシ対策など5期生が試行錯誤しながら考えた活動内容もしっかり6期生に引き継がれフィールド部会の通常活動も定着してきた。

また、館内研修や館外研修、イベントの開催などの様々な活動も5期生からのアドバイスを受けつつ、広報課・交流課とも密に連携を取りながら無事に実施することができた。

フィールド部会での様々なボランティア活動は部会員のスキルアップにつながり、また個々人のモチベーションを上げる結果となった。

7期生のボランティア募集の際は、通常活動以外の研修やイベントについても参加者に関心をもってもらい多くの人がフィールド部会に応募いただいたと聞いている。

令和7年度からは7期生を迎えて新たな活動を実施し、明るくて楽しいやり甲斐のあるフィールド部会にしていきたいものである。

5期生の皆様、おつかれ様でした。



フィールド部会と交流課の共同制作・門松の前で
令和7年の幕開け



フィールド部会員用の手作りバッジ

Memo

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

展示解説部会
井上万寿美
上野 英紀
大中 忠勝
緒方美恵子
檉原 豊
河野 清美
隈本知佐子
齊藤 陽子
柴田 妙
武元 萌子
堤 愼一郎
永田 正
中村 祥子
原 統一
堀 謙一
町田 健夫
美濃部浩志
保田 和代
山内 紘
池松勢三郎
井元 純市
久坂 勘二
久保田 均
坂口 智子
坂口 博幸
坂本 義範
清水 萌
白濱 雅道
田口 光起
竹内 義子
田中 マミ
堤 武敏
中川原裕子
中島 茂樹
中村 勝弘
萩原 洋子
秦 耕司
濱坂 昭
原野留美子
平野 泰典

展示解説部会
藤井 恭子
藤井 吉文
三谷 紘明
宮田 俊行
山口 茜
吉用 賢治
渡邊知也子

教育普及部会
大塚ひろみ
小川 操
奥藺 由理
古賀 重俊
嶋村 恵子
田尻 絹代
田中千津子
萩原 圭司
深堀 慶子
藤本 良美
宮野 道子
植谷 智子
太田 幸子
樗木 昭寿
栗本 純子
小橋 由佳
佐久間俊夫
白濱 潤子
田中はる代
中川 紀洋
西田 京子
早川 悦子
平木アツコ
松尾富美枝
村上 滝子
本園 利治

館内案内 日本語部会
大澤 敦子
大坪 博
霧島 豊
小島 君子
小松 和吉
斯波美津子
鈴木 健之
秦 裕深
村山 恵子
安部 洋子
池辺真由美
和泉田玲子
岩永 純二
大田 宏志
岡松 裕子
奥野 淳子
川元美也子
木村 彰人
木村 彌生
久原久美子
古賀 修
酒井由紀子
藤 真理
西岡 絹子
野間口由利子
萩尾 慶子
森山 初美
八尋寿賀子
山内 順子

館内案内 英語部会
川崎千夏子
小泉 順資
齋藤 勝代
田邊 史子
塚野 正純
橋川 直樹
吉廣 雅代
鹿子木一郎
幸田 祐里
坂本 龍治
迫田 俊三
定野 直美
高宮 沙織
野坂 幸子
平田 亮子
山内 文子
吉田トシ子

館内案内 中国語部会
上松 義彦
江頭 友子
篠原 千晶
孫 凱
古江 秀崇
古川 好美

館内案内 韓国語部会	手話部会	環境部会	イベント・ サポート部会	資料整理部会	学生会	フィールド部会
遠藤 成美	澤村 和子	井上 貴子	金ヶ江芳彦	井上 博人	手嶋 翔一	津田 史郎
川崎 康一	樋口 軍時	上木戸美信	坂口千代子	江藤とし子	姫野 美樹	丹生 秀樹
小柳 紀子	楊井はるみ	柿原紗千子	吉塚 尚司	高武 智子	三宅 元氣	野口 恭子
辻 真紀子	八幡 美子	川島 明美	内山 留美	式田 睦子	大内田 莉紗	花岡 正人
日野 秀子	伊藤 麻美	副島 忍	楠瀬 尚男	白壁 昭子	永井 万貴	帆足 昌子
小椋 云主	高野 新助	辻本美恵子	深田佐智子	服部 典子		盛山 真紀
門野 智美	二ノ宮直子	中島 悦郎	山田真知子	松尾 昌世		草野 淳二
上村みさ子	井料美輝子	迎 瑞恵		松村 寛志		古賀 澄子
古谷 律子	内山 二美	本村久美子				清水 寧
西村 栄子	梅崎 照美	山田 孝二				下川 尚
本田 光江	大川 まき	山本 美子				菅 正美
光安 明美	佐藤 真	内山 昌久				根岸 秀雄
百田真智子	田中 明実	小野なを子				宮園 愛子
	森上 晴美	久保 監				村野 真澄
	若杉 義光	古賀俊一郎				
	渡邊 和子	斎田 裕子				
		田中 章央				
		堂端 弘				
		堂端 聖子				
		西村 三郎				
		原野 欣二				
		平田 恵輔				
		古屋敷浩二				
		松村富美子				
		蓑原 玲子				
		山根 和代				

[illegible]

この報告書は、「来館者にもっと楽しんで欲しい」「来館者にもっと九博を知ってもらいたい」「もっと九博の活動の力になりたい」と、日々、来館者のために、九博のために活動していただいた九州国立博物館ボランティアの活動の記録です。

この活動の記録がこれからの九博でのボランティア活動の発展に少しでも寄与できればと思っています。

またこの報告書を通して、九博のボランティアやその活動が一人でも多くの方に知っていただければ幸いです。

九州国立博物館交流課

田中 健太

二瀬 早苗

高橋ちひろ

九州国立博物館ボランティア一同

九州国立博物館 第6期ボランティア活動報告書

令和7年3月印刷・発行

編集・発行 九州国立博物館 交流課

〒818-0118

福岡県太宰府市石坂4丁目7-2

TEL 092-(929)-3289

印刷

福岡印刷株式会社



Kyushu National Museum Volunteer Report



九州国立博物館

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂 4-7-2
ハローダイヤル 050-5542-8600